



東京浅草中央ロータリークラブ 週報

〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL: http://www.asachu-rc.jp

2013 - 2014 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」
R.I. 会長 ロン D・バートン
地区ガバナー 吉田 建二
クラブテーマ 「参加し行動しよう」
クラブ会長 藤掛 靖元

本日の卓話

落語「百年目」

金原亭馬生 様

今後の卓話予定

4/9 炉辺会合報告 各炉辺グループ代表者
4/16 「ローターアクトに入会して」
東京江戸川ローターアクトクラブ 幹事 石川 緑 様
東京池袋ローターアクトクラブ 会員 長谷川 俊 様
4/23 「健康に日々の生活を」 岡村 幸 様
4/30 休 会



2014 年 4 月 2 日

第 1355 回例会

会長 藤掛 靖元
幹事 伊石 佳高



4 月お誕生日祝

8 日 (66 才) 太田富美夫君 27 日 (60 才) 田村 順二君
30 日 (66 才) 海内 栄一君

前回 (3/26 1354 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 0名
◆ビジター 3名

東京浅草R.C. 戸谷 治正 様
東京小石川R.C. 梶原 徳二 様
東京東江戸川R.C. 鈴木富士雄 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
47名	3名	4名	39名	3名	92.86%	1352回例会修正 欠席2名・出席率95.24%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！

会長報告 <藤掛会長>

・先週の15日土曜日、16日日曜日の両日に渡って「全国ローターアクト研修会」が東京ビッグサイトにて開催されました。15日のみですが山尾さん、齋藤さん、私が出席を致しました。全体の参加者は北海道から沖縄までのローターアクト、ロータリアン、米山留学生等を含め約700名です。本年度は当地区のローターアクトがホストを務め、吉田ガバナーは

じめ地区役員も多く参加致しました。この、研修会は名の通り全国のローターアクトが集いグループワークやワークショップを通し参加したロータリアンと共に一つのテーマに取り組みお互い学び合う参加型の親睦と交流を図る催しです。本年度は「日本のリーダー」をテーマとし、職業奉仕の観点から自己の仕事に対する思い哲学をお互いに語り、地域や世代を超えての意見交換の中で自己啓発と

親睦を深めることを目的としたプログラムが組まれております。具体的には予め5人のローターアクトがそれぞれの仕事への思いや哲学に基づいたテーマを掲げており参加者は自分の興味に従い5つのグループに分かれます。(一つのグループが140名くらいになるよう調整いたします。)各グループのテーマは「挑戦を通じ人は成長する」「日本再発見―誰も地域観光特使」「心を豊かに―私のモチベーション維持」「How to Advice―あなたならどうする?」「未来の自分の設計書」。私は「心を豊かに―私のモチベーション維持」のグループに入りました。各グループ毎に最初にローターアクトが講演を行い

その後各グループの中で6名が一つのテーブルにつきワークショップを行います。小グループはローターアクト4人、米山留学生1人、ロータリアンは私を含め2名です。その中で自己紹介から始まり、①自分の中で大切にしている言葉、想い②今、花を咲かせようとしていることetcについて話し合いました。当に世代、業種を超えた取り組みです。私自身若い方々の中に入り、久々に自分と向き合い、心身ともに活性化されたように思います。

*本日ポケットに入れました「青少年奉仕情報」の5ページに掲載されております。次号にも掲載されます。

幹事報告<伊石幹事>

・ロータリー手続要覧の最新版が届いております。希望者の方はクラブ事務所にお申し出願います。1冊¥800となります。

・4月のロータリーレートは1ドル102円です。宜しくお願い致します。

ニコニコボックス

<東京東江戸川R.C. 鈴木富士雄様>

・本日は、長沼さん海内さんにご指導を仰ぎたく、来ました。いつも楽しくロータリーを教えていただいております。ありがとうございます。本日はお世話になります。

<藤掛会長、伊石幹事>

・河村さん、イニシエーションスピーチ。田村さん、卓話。よろしくお願ひ致します。

<太田、永井、山尾、宮村、海内、岩戸、小池、小林(博)、天笠、中村、古谷、上原、原田、尾泉>

・「イニシエーションスピーチ」河村英朗君、「健康の話」田村順二君、よろしくお願ひいたします。

<藤田>

・結婚記念日の花束有難うございました。昭和33年結婚以来56年間夫婦をやっています。台東高校三年の時、級長・副級長をしてから現在迄クラス会の延長であります。これも楽しからずや。
・鶴竜横綱昇進おめでとうございます。3横綱ともモンゴル出身。日本人の横綱も期待します。

<矢野>

・結婚記念日に花束を戴きまして誠に有難うございました。

<天笠、柘>

・プロ野球開幕間近。セ・リーグ開幕投手を発表。どの球団もガンバレ。

<笹生>

・一月行き、二月逃げ、三月去り、スプリング ハズカムで身も心も浮かれ弾む筈ですが、どうも様子が違います。そこで二曲・歌うニコニコ



[どじょっこ ふなっこ]ならぬ[いっばん しょみん]と

♪四月になれば 消費税があがり
家計を直撃 暮らしを圧迫
一般庶民は困るべな

[ラブユー東京]ならぬ[ヤダナー日本]をご披露

♪ささやかな夢が 消えてしまったの
シャボン玉のような 年金暮らし
四月からは
消費税が 8%になるのね
ヤダナー ヤダナー 涙の日本

歌詞・歌唱 笹生淡水

イニシエーションスピーチ



河村英朗君

イニシエーションで何でも話して良いということを聞いていたので、何をお話しすれば良いか迷ったのですが、皆さんどうやらお座敷遊びが出来るのか、そのきっかけなりしくみのようなものが分からないのでなかなか行くに行けないというお話をよく聞くので、今回はそれにまつわるお話をさせて頂きたいと思います。

まず、料亭とは何か、

辞書によれば日本料理、和食をお出しする高級飲食店と記載されています。

でもただそれだけではなく、料亭というのは大きく分けて2種類のタイプがあります。

お店に板前さんがいて、料理等全て自前でお出しするスタイル。

もう一つが、板前さんという存在がなく、料理はほぼ外部にお願いする、

つまり仕出しでお料理を提供するタイプの2種類あります。

都鳥は後者板前さんのいない料亭になります。

実は都鳥は元々待合茶屋という形態で、遊女、芸者さんと遊ぶのに特化したお店でした。

関西では未だにお茶屋さんなんて言われていますが、東京ではなかなか聞かないですね。

なぜ関東で待合茶屋、あるいはお茶屋さんという言い方をしないかと言いますと、戦後の売春防止法の改正で料理茶屋も待合茶屋もみんな一緒くたに料亭という名前に統一しようという決まりができたためです。なのでややこしいのですが、都鳥は料亭という位置づけになります。

ただし、都鳥は料理云々というよりは芸者さんと楽しむ場という度合いの方が強い料亭です。

ちなみに待合茶屋の形をとっている料亭は浅草でも都鳥しかありません。

お茶屋さんというのは、先ほども申し上げました通り、普通の料亭と違って仕出しでほぼ全てまかないますので、極端な例を申し上げますと、もう懐石料理は飽きたから今日は、餃子とラーメンでとか、の最後に今日は鰻を食べたいから鰻を頼んでおいてくれ等の要望も全てこちらで承っております。

食事以外の要望でも例えば、

ちょくちょくあるのはバンドさん呼んで、芸者衆と一緒にデュエットしてカラオケ大会を楽しんだり、珍しい例だと、皆さんお座敷で盛り上がり最中に、整体に掛かりたいから隣の部屋に整体師呼んでマッサージを受けていた方もおります。

そういった柔軟な対応ができるのがお茶屋さんの醍醐味かなあと私は思っています。

ただしこれは例外でして、あくまで基本は会席料理のコースが出てきて、途中でお座敷が始まり、それが終わったらまた煮物、デザートで〆という流れが一般的です。

あと皆さん、興味はあるんだけど…行くのにどうやって、どうしたらいいのか分からないというお話を良く聞くのですが、簡単です。それはもう電話して頂ければこちらですぐに手配させていただきます(笑)

電話での予約の取り方なのですが、こちらで主にお伺いすることがございまして、それはお日にち、お時間、お客様の人数、料理の内容、芸者衆の人数、日本髪か洋髪か、お座敷を付けるか否かです。

まず芸者衆についてですが、皆さんが想像される芸者さんは大概「白塗りで日本髪で」という感じだと思うのですが、花柳界の中で普通の格好というと実は着物に洋髪のスタイルなんです。

なので予約の段階で特段のリクエストが無いときは芸者衆をお呼び頂いても皆様の思われる様な「白塗り日本髪で」という定番の格好では出てきません。

もし、「白塗り日本髪で」という時は別途費用が掛かりますがお電話でその旨をお伝え下さい。

あと、お座敷を付けるか否かというのは、芸者衆に踊りを踊ってもらうかどうかの確認なのですが、お客様の中には芸を見るよりずっと芸者衆と話していたいという方もいらっしゃいますのでその為の確認です。でも正直申し上げますと、始めての人は特に、せっかく料亭で遊ぶならお座敷を付けて、芸者さんの芸を見てもらいたいなあという気持ちはあります(笑)

ちなみにお座敷を付ける場合には、都鳥では立ち方（踊り手）、地方の三味線、太鼓の三人を必要としていますので「お座敷を付ける場合は」お客様に芸者衆を最低3人呼んで頂くことになっています。

料金体系なんかも気になると思うのですが、こちら側、料亭としてお客様から頂くのは席料、酒代、仕出し等のサービス料、各種連絡費用です。お客様側にお支払いして頂くのはそれプラス芸者衆の玉代です。ちなみに都鳥から芸者さんへ支払う玉代の中にはご祝儀代も含んでおりますので、お座敷で芸者衆にご祝儀を包む必要はありません。でも、それでも芸者衆に渡したいという心意気のある方はぜひいくらでも包んであげてください(笑)

料金の事で一人大体いくらくらいなの？って訪ねられることは凄く多いのですが、その時のやり方によって全く違います。お客様の人数であったり、料理の内容であったり、どの位お酒を飲まれるか、芸者衆が何人入って、どの位の時間いたかによって全然変わってくるのでなんとも言えません。

たとえば、お客様5名様、時間2時間、会席料理、一人あたりお酒を3本飲んで、芸者衆を3人入れた時の料金は大体44000円です。でも例えば、先ほどの条件の人数を10名に変えると大体3万7千円位になります。お客様の人数が多ければ多い程お安くする事ができるということです。これはあくまで上限ですので、料理の内容と芸者衆の人数によってはもっと安くすることも可能です。

なんでこんなに値段が向島と違うんだという疑問を持たれる方がいらっしゃるかも知れませんが(笑)、東京の6花街、浅草、新橋、赤坂、芳町、神楽坂、向島、の中で向島だけはシステムが特殊です。通常ですと花街というのは、三つの生業と書いて三業と言われる形態になっています。一つ目が置屋、これは芸者さんのプロダクションのようなものです。それと、料理屋、待合、という風に3つが独立して成り立っているのですが、向島さんの場合は料亭、料理屋さんが置屋の機能を有するので、人件費の面で無理が効くというのが相当なアドバンテージになっているんだと思います。キャバク

ラの形態なんかは大体これですよね。あとはカモメさんと呼ばれる"パイトの芸者さんシステム"も安値に大きく貢献しているものと思われます。

最後にですね、私が一番伝えたいことは、
全ての花柳界が無くなってしまったら…

「日本の伝統文化に相当な衰退をもたらす」ということです。

芸者さんはとにかくお金がかかります。日々の数々のお稽古代から、毎月の着物代、着付け代、美容院代、カツラ代、鳴り物を買うお金、踊りの会の費用などキリがありません。これはつまりは関連する業界への影響力が大きいということに他なりません。

もし芸者さんがこの世から消えてしまったら…

多くの踊りや歌などのお師匠さんの生活がおそらくけっこう苦しくなります。

三味線、太鼓など伝統楽器、着物業界、あるいは簪、帯留めなどの装飾品業界、日本髪のカツラ業界、その他様々な業界にとって打撃になります。

今、実際にこういったことが起きています。

日々何気無く花柳界で遊んで下さる方々というのは、
私は日本の伝統を支えて下さっている人達であると思っています。

なので皆さん何か接待やら会合やらお祝いごとなど機会がございましたら
キャバクラとか行くのではなく花柳界へと足をお運びください。

ぜひともよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

「健康の話」



田村 順二 君

卓話者の原稿が未着のため、編集者が記憶をたどって要約しましたので違っておれば、ご容赦願います。

<要約>

- ・ 癌についての予防医学は、あり得ない。
- ・ 癌は日本人にとって、格別な病気ではない。
- ・ 喫煙者の内、30%は肺ガン等の癌にかかるデータがある。
- ・ 飲酒して二日酔いする人は、胃ガンにかかりやすいが、早期に発見すれば問題ない。
- ・ お酒の強い人は、食道ガンにかかりやすく、進行が早いいため快癒するのは困難である。
- ・ 塩分を取りすぎる人（例えば漬物に醤油をかける等）も、高血圧等で脳梗塞をおこしやすい。
- ・ 便秘がちの人は、大腸ガンにかかりやすいが、牛蒡等の繊維野菜をとるか、下剤等の薬剤を使用すれば確率が低くなる。

酔蜻蛉

今年は東京での桜の開花は、3月28日ごろと言われていたが、ここにきて一気に満開となりました。

こと程、お花見の予想は難しい。日本人にとって桜は格別のものだが話を聞いてみると、以外に桜についての知識が疎いことに気付かされる。

ということで、桜に関する文献を調べてみたのでご披露したい。

サクラは、バラ科サクラ属サクラ亜属に分類される落葉広葉樹で、日本では固有種・交配種を含め600種以上の品種が確認されている。

特に江戸末期に出現したソメイヨシノ（染井吉野）は明治以降、日本全国各地に広まり、サクラの中で最も多く植えられた品種となった。

中国文化の強かった奈良時代は、和歌などで「花」と言えば梅をさしていたが、その後、平安時代に国風文化が育つに連れて徐々に桜の人気が高まり、「花」とは桜を指すようになる。

古今和歌集仮名序にある王仁の歌とされる「難波津の咲くやこの花冬ごもり今は春べと咲くやこの花」の「花」は梅だが、平安時代の歌人、紀友則の歌「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花ぞ散るらむ」の「花」は桜である。

左近の桜は、元は梅であったとされるが、桜が好きであった仁命天皇が在位期間中に梅が枯れた後に桜に植え替えたとされている。

歌人の中でも、特に平安末期の西行法師が、桜を愛したことは有名で、吉野の桜を多く歌にしており、特に「願はくは花の下にて春死なん そのきさらぎの望月のころ」の歌は有名である。

桜は開花のみならず、散っていく儂さや潔さから、諸行無常といった感覚にたとえられており、日本人にとって（特に江戸っ子？）格別な「花」とされている。

少し、柄になく固い話となったので、最後に小唄でも桜にまつわる歌詞は多いがその中で、小生の好きな唄をご披露したい。

“酒なくて何のおのれが桜の下で 怒り上戸に泣き上戸
笑い上戸が 仲良く お酒をのむ内に そろそろ一人が腹立
てる 笑う泣き出す三人上戸 泣いて怒って気がすむなれば
お酒のむのもいじゃないか どうせ浮世の憂さはらし”

